不測の事態に備える軍人家族への取り組み

MRS: Preparing military families for the unexpected

March 11, 2025

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

自然災害や緊急事態が起こると、コミュニティにはパニックと不安が広がる。14年前、2011年の東日本大震災と津波で「トモダチ作戦」を行った際、横田基地のコミュニティも同じような状況に直面した。

この時、日本はマグニチュード9.0の巨大地震と津波に襲われ、原子力発電所事故の危機にも直面していた。この状況を受け、米国防総省の軍人家族には、政府の負担で日本から退避できる選択肢が与えられた。この自主退避は「パシフィック・パッセージ作戦」として行われた。

第374装備即応中隊司令チャールズ・コフマン中佐は「2011年のトモダチ作戦の時、横田にいた」と語る。「国外への自主退避が実施される中、その過程で家族らはその手続きやの負担や強制避難の可能性にストレスを強いられた。また、私の中隊の日本人従業員を含むメンバーたちも膨大な任務に追われ、不安の中、自身の家族と過ごしたり、支えたりする余裕すら持てない状況だった」を振り返る。

これらの困難な時を振り返り、コフマン中佐と第374空輸航空団副司令官のブレット・コクラン大佐は、横田基地の軍人配偶者がレジリエンスを高められる方法について議論を重ねた。

「ミッション・レディ・スパウズ（備えある軍人家族：MRS）」の誕生

「現役兵には『ミッション・レディ・エアマン（備えある軍人：MRA）』のプログラムがあり、さまざまな状況に備えている。しかし、軍人家族にはどのような備えがあるだろうか」と自問した。

この疑問がきっかけとなり、MRAの概念を応用し、軍人の配偶者が必要なレジリエンスやさまざまな課題への対応スキルを身につけるプログラムが考案された。

コフマン中佐は「アイデアを交わす中で、『ミッション・レディ・スパウズ（MRS）』の名称の取り組みを作ってはどうかと考えた」と振り返る。

MRSは、MRAの概念を補完する形で名づけられた。軍人家族もまた軍特有の課題に対応できる準備をすべきだという考えを強調するものである。このプログラムは最初、第374装備即応中隊で始まり、アメリカ赤十字と戦術的戦傷救護の訓練に重点を置かれた。やがて中隊の枠を超えて、横田基地の他の部隊へも広がっていった。

「MRSの目的は、軍人配偶者が非常時や自然災害、軍特有の生活に伴うストレスに対応できる力を身につけ、家族や部隊を支えられるようにすることだ」とコフマン中佐は説明する。

不測の事態に備える軍人家族への取り組み

海外に駐在する軍人家族は、緊急時に独自の課題に直面する。いざという時に迅速に安全な行動ができるうよう、備えを整えておくことが大事だ。

「家族も現役兵同様に必要な訓練や知識を身につけるべきだと考える」とコフマン中佐は強調した。

コフマン中佐は、MRSは今後さらなる発展を遂げると見据えている。「今後、MRSの訓練やイベントの機会を増やし、体系的なプログラムを確立していくことで、この取り組みを強化していきたい」と期待を語る。

MRSを通じて軍人家族が必要なスキルとリソースを備えることで、横田基地コミュニティのレジリエンスを高め、不測の事態にも対応できる基盤を築くことができる。